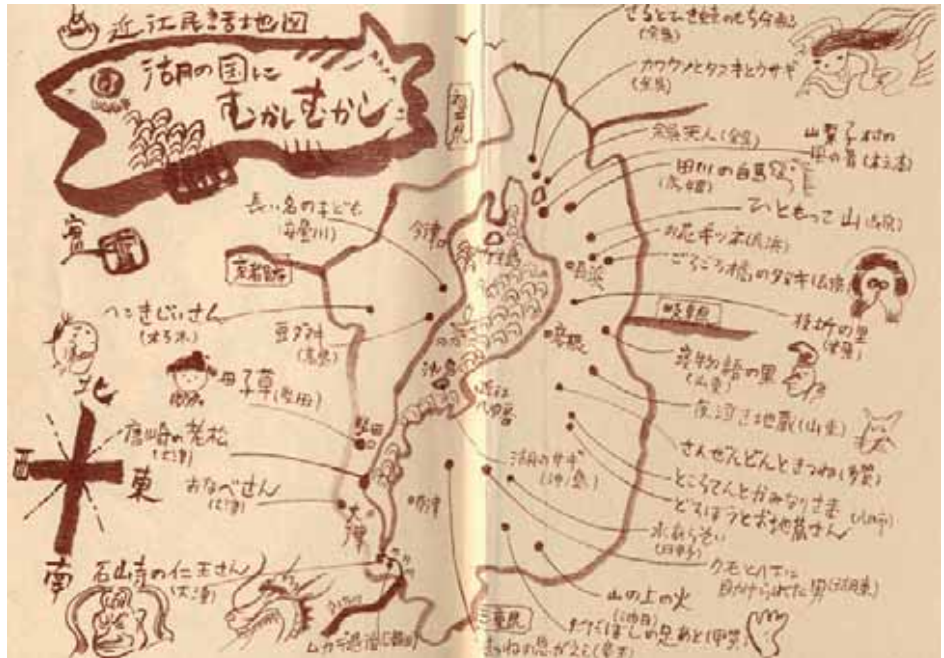


## 民話でたどる滋賀

日本一大きい湖・琵琶湖がある滋賀県は、比叡山、比良山や伊吹山など周囲を山に囲まれています。東海道や中山道など、都と地方を結ぶ主要な街道が通っていたこともあり、昔話や伝説が広く県内に伝わり残っています。

子どもの頃、おじいちゃんやおばあちゃんから聞いたお話はずっと心に残っているものです。

今回は滋賀県で語り継がれてきた、民話（昔話・伝説）をご紹介します。



(『ひともっこ山』滋賀県児童図書研究会編 サンプライツ出版より)

### INDEX

- ・ (特集)民話でたどる滋賀 ..... 1 ~ 3 面
- ・ ひとくち源氏物語 5. 融神社..... 3 面
- ・ 郷土資料紹介 ..... 5 面

### 図書館の催し

和田武大氏 写真展

「チベットを知ろうよ 2009」 2月4日(水)~21日(土) 1階談話室

#### 土曜サロン

2月21日(土) 午後3時30分~ 1階談話室 「チベット 天空の地を旅して」

講演：元産経新聞社記者 和田武大氏 DVD上映：「ヒマラヤを越える子どもたち」

3月21日(土) 午後5時~ 1階ロビー 「草津チェンバーとワルツを歌う仲間」

#### おはなし会

2月20日(金)・3月13日(金)

午前11時と午後3時の2回 1階談話室

## 滋賀の昔話を読む

『ひとっこ山』滋賀県児童図書研究会編 京都 サンブライツ出版 (1979年)

近江の国の土を駿河の国へ運んで、富士山と琵琶湖を作るお話ですが、ひとっこ分だけを残して仕事が終わってしまい、その残った土が、長浜の南にある田村山となったそうです。当館の児童室で発行している児童室だより「ひとっこ子」の名前の由来になっています。

他にも、1ページの図にあるように、琵琶湖にまつわるもの・雨乞いや水争いのはなし・動物・笑い話など、近江の暮らしから生み出された昔話が載っています。

『近江むかし話』滋賀県老人クラブ連合会・滋賀県社会福祉協議会編集  
京都 東京ろんち社 (1968年)

『続・近江むかし話』滋賀県老人クラブ連合会編 京都 洛樹出版社 (1977年)

昭和43年2月の県老人クラブ連合会で、明治百年を記念してふるさとの伝説や民話を集め、若い世代に遺そうという話が出ました。郷土愛の失われつつあるとき、民話をよみがえらすことは、老人クラブの立派な文化活動であるということで、専門家の協力も得ながら出版されたものです。

『滋賀のむかし話』滋賀県小学校教育研究会国語部会編 日本標準 (1976年)

『滋賀のむかし話』改訂版 滋賀県小学校教育研究会国語部会編 日本標準 (1995年)

『読みがたり滋賀のむかし話』滋賀県小学校教育研究会国語部会編 日本標準 (2004年)

以上の三点は改訂、改題しながら発行されてきたもので、滋賀県の方言で語られています。子どもたちにもそのまま後世へ伝えたい昔話がたくさん出てきます。「源五郎ブナ」や三橋節子さんの絵でもおなじみの「かみなりの落ちない村」も収録されています。

滋賀県のホームページ(<http://www.pref.shiga.jp/>)に掲載されている「民話でたどる滋賀の風景」は2004年に発行されたものを元にして、音声でお話を聞くことができ、お話の地を写真と解説で楽しむこともできます。

『湖国と文化』(財)滋賀県文化振興事業団編刊

第96号(2001年)から「滋賀の伝説と民話」渡辺守順・文、斉藤裕子・絵の連載が開始されています。これは、現在も継続中です。なお、第119号(2007年)は「ふるさとの民話」と題して特集も組まれています。

## 伝説の地を訪ねる

『近江の昔ものがたり』淡海文庫15 瀬川欣一著 彦根 サンライズ出版 (1999年)

三井寺の鐘にまつわる三つのお話「子供の顔が浮かぶ釣鐘」「弁慶の引きずり鐘」「三井の晩鐘」や「余呉湖の天女」が掲載され、お話のミニ解説と写真も添えられています。弁慶が引きずった鐘や、余呉湖の天女が羽衣を掛けたと言われる「衣掛けの柳」などの伝説の地を現在も訪ねることができます。



「弁慶の引きずり鐘」(『原色写真版 弁慶の生涯』7枚組絵葉書のうち 戦前 当館所蔵)

『近江の伝説 日本の伝説 19』 駒敏郎・中川正文著 角川書店 (1977年)

比叡山の七不思議と言われるお話には「一つ目小僧」「なすび婆あ」「美人の水ごり」「六道おどり」「一文字たぬき」「船坂のもや船」「蛇が地縁起」がありますが、このほかにも比叡山にまつわるお話が収録されています。

『御伽草子集』「新潮日本古典集成」新潮社 (1980年)

「**依藤太ものがたり**」は、大津の瀬田の唐橋と野洲の三上山が舞台になっており、依藤太(藤原秀郷)が大百足(おおむかで)を退治する伝説で、子どもの頃に一度は聞いたお話ではないでしょうか。

「**諏訪の本地**」も、甲賀市水口町の大岡寺の中にある諏訪神社に祀られている甲賀三郎が主人公です。

## 民話を残し語り伝えるために

『ふるさと近江伝承文化叢書』

1978年から1979年にかけて県の補助を受けて、当時の全市町村で伝承されてきた歴史・民話・伝説などがまとめられたものが各市町村教育委員会などから発行されています。

市町村ごとに一冊一冊の本になっていて、最も身近な地域資料として地元の研究や住民の方々への取材を元に作成されています。

子どもたちに滋賀の民話を読んであげることが、郷土のお話を語り継いでゆく、大切なひとときです。各自治体や老人クラブをはじめ、文庫や図書館のボランティアの方々も、民話を残し語り伝えるために、おはなし会など様々な取り組みをされています。

また、児童図書研究会、児童図書館研究会など、県内には各種研究会もあります。

口承文芸学者の小澤俊夫氏による「昔話大学」も彦根市と近江八幡市で、毎年開催されています。

県立図書館では、参考資料室と児童室に滋賀の民話の本を置いています。お話し会での民話の読み聞かせや、語りもしていますので、興味のある方はぜひご参加ください。

## ひとくち源氏物語 5. 融神社

大津市伊香立にある融(とある)神社は、光源氏のモデルと言われる源融を祀る源氏物語ゆかりの地です。

源融は、卓越した詩の才能があり小倉百人一首 14 番目『みちのくのしのぶもじずり たれゆえにみだれそめにし われならなくに』の詠み人でもありました。

後の世に紫式部は、源氏物語の主人公である光源氏を描くにあたり、華麗な生活を送る源融をモデルにしたと伝えられています。

融神社境内に拝殿舞台があり、毎年8月25日に源氏物語五十四帖をテーマにした幻想的な舞踊「源氏舞」が奉納されています。「源氏舞」とは、能に近い日本舞踊の一形式「地唄舞」の家元が、源氏物語五十四帖を研究し、一帖ずつ振付を考案した創作舞踊です。

ひっそりと静まり返った境内は、まるで源氏物語の一場面のような様子でした。



(源氏舞が奉納される融神社) アクセス:大津市伊香立南庄町 1846 伊香立浜大津線沿い



## 今月のBOOKまーく



滋賀県子ども読書  
地域フロンティア事業  
イメージキャラクター  
「ブックくん」

### 子どもの読書活動推進について

滋賀県では、子ども達に本の魅力や、読書の楽しさを伝えていくために平成17年2月に「滋賀県子ども読書活動推進計画」を策定し、今年で5年目を迎えることになりました。

また、県内26市町でもそれぞれの地域の実情を踏まえ、子ども読書活動推進計画が着々と策定されています。いま滋賀県では、図書館・学校・家庭・地域等、社会全体で「子ども読書活動」を推進しています。

みなさんは、「子ども読書活動支援センター」(県教委生涯学習課)のホームページをご覧になったことがありますか? 「子ども読書活動支援センター」は、インターネット上で子ども読書活動に関する総合的な情報を提供し、子どもの読書活動を支援するために開設されています。「お知らせ」のコーナーでは、県で開催している子ども読書関係の講座の案内や内容を紹介しています。また、講座の様子などを「子ども読書活動取組事例」コーナーに掲載しています。( <http://www.nionet.jp/dokusho/index.html> )

## FLASH ふらッシュ

### 図書館のエコ 枯葉を堆肥に



図書館が建っている文化ゾーンには、多くの種類の木があります。秋から冬にかけて、木々からはたくさんの葉が落ちてきて、公園内の道を鮮やかに彩ります。その落ち葉が、その後どうなるかご存じでしょうか? 拾い集められた落ち葉は、公園の管理をしている緑地センターに集められ、チップ堆肥へと生まれ変わっていくのです。そして毎年4月29日に開催される「みどりのつどい」で、花の種、苗などとともに無料配布されています。今年の落ち葉も、やがて堆肥となり、栄養分として花や木に戻っていきます。春にはきっと美しい花となって皆さんに再会できるでしょう。

## 湖国の本棚



### 『一日一生』

酒井雄哉著 朝日新聞出版

2008年 700円+税

比叡山で、約7年かけて約4万キロを歩く荒行「千日回峰行」を2度満行されたのが、著者の酒井雄哉大阿闍梨です。修行や、これまでの人生で出会ったできごとを通じて、氏が感じられたこと、「衣を濡らす朝露が集まって小さな流れになり、やがて琵琶湖に注ぐように全てが繋がっていくこと」、「赤い太陽と青い月が同じ空に浮かぶ様を見て、仏様の居場所に気づかれたこと」などが、優しい語り口調で書かれています。過酷な行を続ける中で得られた暖かい言葉は、日々の生活を見直す、違った視点を持つきっかけになるかもしれません。

今月のデジタルアルバム帖 2・3月 絵図に見る膳所城と城下町  
江戸時代、東海道を江戸へと向かうため、大津の町を過ぎること約  
2.5km、旅人の目には琵琶湖岸に浮かぶ膳所城の天守が映っていました。  
膳所城は、慶長6年(1601)に徳川家康の命で築城され、徳川幕府の  
西国における軍事拠点のひとつでした。今回は、この膳所城と城下町、  
膳所藩領内の様子がわかる絵図を中心にご紹介します。



旧膳所城郭明細図

## 郷土資料紹介

平成20年11月～12月購入・寄贈分

### 三尾神社の古建築

三尾神社編刊 2008年

「あかん人」なんて絶対いない 型破り尼さんの“へこんだ心”に効く説法

村瀬明道尼著 大和出版 2008年

古代地方木簡の世紀 西河原木簡から見えてくるもの

滋賀県文化財保護協会、滋賀県立安土城考古博物館編 滋賀県文化財保護協会 2008年

中近世の村落と水辺の環境史 景観・生業・資源管理

佐野静代著 吉川弘文館 2008年

信長はなぜ叛かれるのか 城と戦国武将

小島英記著 ポプラ社 2008年

戦国大名浅井(あざい)氏と北近江 浅井三代から三姉妹へ

長浜城歴史博物館企画・編刊 2008年

戦後滋賀の教育のあゆみ 民間の実践を中心に

滋賀県民主教育研究所編刊 2008年

空と森の王者イヌワシとクマタカ

山崎亨著 サンライズ出版 2008年

江戸時代の医療

彦根城博物館編刊 2008年

琵琶湖のキャッフィー物語

河合亜寿香絵・文 第21回全国スポーツ・レクリエーション祭滋賀県実行委員会 2008年

守ろう環境を！みんなで手をつないで びわ湖会議のころを未来へ

びわ湖会議30周年・解散記念誌

「びわ湖を守る水環境保全県民運動」県連絡会議編刊 2008年

彩路記 そぞろ歩いた彩の私景

松本稔作 松本忠編 松本稔刊 2008年

夢のあしあと 山本璋子写真集

山本璋子著 マツシマススム編 山本璋子刊 2008年

言葉の花束 先人の知恵と名言

増井金典編著 滋賀ことばの会 2008年

滋賀近代文学事典

日本近代文学会関西支部滋賀近代文学事典編集委員会編 和泉書院 2008年